

県医よろずQ & A

Q 新潟県脳卒中・心臓病等総合支援センター

7月に発足した「新潟県脳卒中・心臓病等総合支援センター」について解説してください。

(N生)

新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学 教授
新潟県脳卒中・心臓病等総合支援センター センター長
猪 又 孝 元

A

新潟県の循環器病を取り巻く実態

脳卒中と心臓病、合わせて循環器病と呼ばれますが、命に関わる事態になっても、一般住民には交通事故のようなもの、仕方がないことと思われがちです。なかでも新潟の地では、他人事との意識が定着すらしているようにも感じます。しかし、循環器病は際立った3つの疫学データを有しています。まずは、死因の第2位。首位のがんはゆっくりと減少し、循環器病はゆっくりと増加している。お隣の群馬県は、一昨年その順位が逆転しました。そして、医療費の第1位。さらに健康立県を標榜する新潟において重要なのは、健康寿命に最も関連している点でしょう。つまり、すべてにおいて自分事たる疾患群のはずです。しかし、新潟には厳しい現実があります。脳卒中の死亡は全国のなかで一貫して高率と報告されています。そして、循環器病の命を支える救急、発病後の生活の質を支えるリハビリ、われわれ現場はその整備に血眼になってきましたが、未だ標準には届いていません。健康寿命に至っては、この30年間で全国第6位から第34位へと急落し、今や新潟県は健康立県などと胸を張れない土地になりつつあるのかもしれません¹⁾。

新潟県における循環器病対策の歴史

循環器病対策の法整備は、はや7年半前にさかのぼります。がんの個別化治療を現実化させたがん対策基本法を叩き台に、死因第2位の循環器病にもこれと同類の法律、脳卒中循環器病対策基本法が生まれました²⁾。各都道府県で循環器病対策

推進計画が策定され、新潟県にも推進会議が設置されました³⁾。このアクションを後押しする目的で国・厚労省はセンター事業を立ち上げ、本県でもようやく採択されるに至ったわけです。ところが、循環器病対策推進会議は、施策の立案と評価、国への報告が主たる役割で、実行役が組織にほぼ組み込まれず、これまで新潟県では循環器病対策はほぼ行われなかったに等しい経緯があります。この7月に発足した「新潟県脳卒中・心臓病等総合支援センター（通称:にいがた脳心センター）」⁴⁾は、新潟大学医歯学総合病院に本部が置かれ、まさに実行役が集う組織に設置されたことで現場が大きく動く期待が寄せられています(図1)。

にいがた脳心センターの役割

にいがた脳心センターの役割を説明します。まず、患者家族に寄り添う支援や相談。次に、住民や医療者のbottom-upを図る啓発活動。そして、重要なのは、急性期から回復期、維持期、在宅に至るまで医療フローを紡ぐ連携とネットワークの構築。そして、それを具現化するため、行政や医師会と協働で進める、そのような組織体です(図2)。循環器診療はこれまで、急場を凌ぐ点としての医療が中心でした。しかし、疾病構造の変化に伴い、単なる生死に加え、生活の質やいわゆる生き様にも目配せをする「支える循環器診療」が求められています。当センターでは活動の第一弾として相談窓口を設置して患者家族からの声に耳を傾け、さらに県北、上越、長岡など各医療圏に支部を設け患者支援体制を広げています。

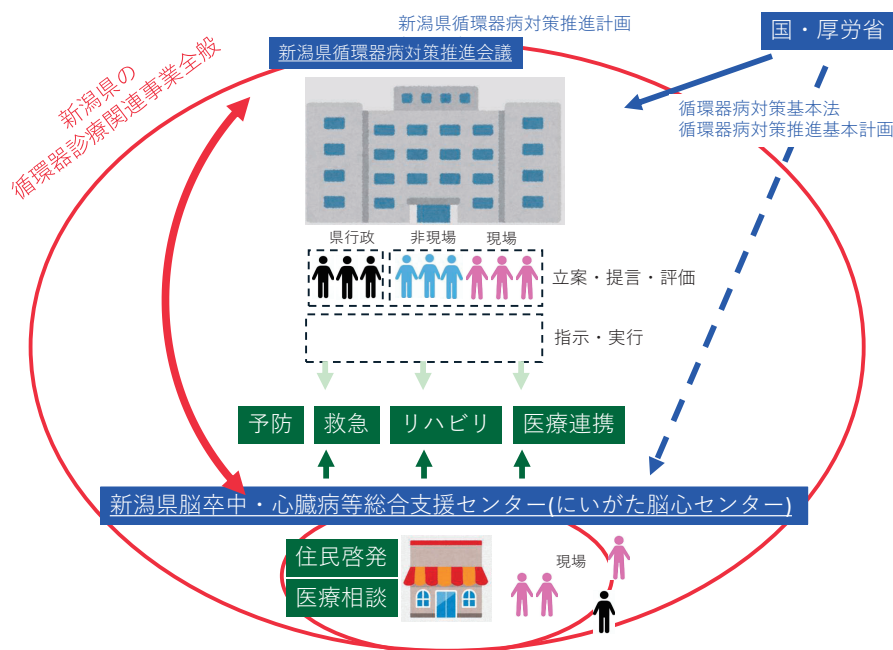


図1 法律に基づくにいがた脳心センターの立ち位置

脳卒中循環器病対策基本法と新潟県循環器病対策推進計画のもと、協働した実行部隊の役割を担う。

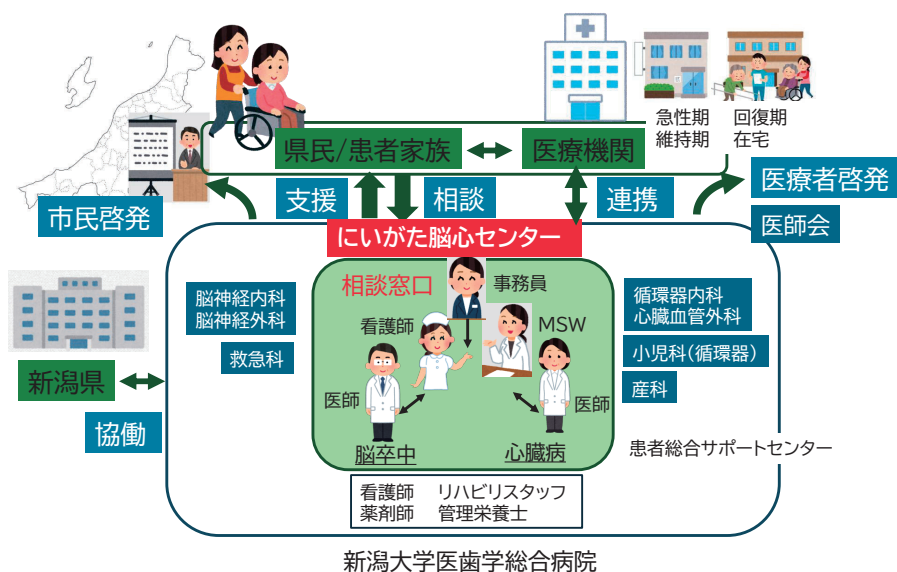


図2 にいがた脳心センターの役割

県や医師会などと連携を取りながら、地域全体の患者支援、普及啓発、円滑な移行推進、医療・支援機関のネットワーク構築などを図る組織体である。

地域医療構想と循環器病対策

ここで、循環器病の自然経過を考えてみます。生活習慣病からカラダが傷み、表立ち、進行して重症化、死にも至る、ゆっくり下るこのプロセスには20年余りの時間がかかるとされています。この長い時間軸には一貫して寄り添う医療が必要です。一方、その時々には大事が起きて病気を進展させる、ときには大事を乗り越えず死に至る、この大事への対処、すなわち救急は、on-site でしか

対応ができません。循環器病には、時間軸と on-site への対応という決定的な特徴があります。

私のふるさと、上越地方を筆頭に、地域医療構想が議論されています。経営的観点に目途が立った暁には、次に、医療システムの在り方そのものが問われます。その際、その地域内でしか完結できない医療とは何かをまず議論せねばなりません。それは、多くの住民に対し、入口から出口までを支え、いざというときに命を守る、まさに循



にいがたのうしん

新潟のいのちを守る、明日をひらく にいがた脳心センター

開設

新潟県脳卒中・心臓病等総合支援センター



わたしたちが新潟を守ります
Save Niigata, save your brain and heart.

脳と心臓による循環器病は、死因の第2位。表立つまでは長く、しかし、病気は突然に現れ、ときに後遺症に悩まされます。実は、予防や治療の手段や時機が多く「やりようがある」病気です。地域や患者さんと情報共有し、多職種 の医療スタッフが力を合わせ、循環器病へ立ち向かうため新潟全体が連携する、これがにいがた脳心センターの使命です。



センター長
循環器内科科長
猪又孝元



副センター長
脳神経外科科長
大石 誠

電話・面談での**無料相談** 県内の誰からでも幅広い相談に対応

TEL **025-227-2712** 月～金曜日 10:00～16:00

新潟県脳卒中・心臓病等総合支援センター事務局 新潟大学医学部総合病院患者総合サポートセンター内
〒951-8520 新潟県新潟市中央区旭町通一番町754番地

詳細はホームページをご覧ください



相談
窓口

図3 にいがた脳心センターの使命

新潟に住んでよかった、そんな風に思える循環器病対策を、行政や医師会とともに進めていく。

環器診療の特徴を指しているように感じます。

にいがた脳心センターの使命は、シンプルです。新潟に住んでよかった、そんな風に思える循環器病対策を、行政や医師会とともに進めます(図3)。ぜひお力を貸していただき、そして期待していただきたいと思います。

文献

- 環器診療の特徴を指しているように感じます。
- にいがた脳心センターの使命は、シンプルです。新潟に住んでよかった、そんな風に思える循環器病対策を、行政や医師会とともに進めます(図3)。ぜひお力を貸していただき、そして期待していただきたいと思います。
- ## 文献
- 1) GBD 2021 Japan Collaborators : Three decades of population health changes in Japan, 1990-2021 : a subnational analysis for the Global Burden of Disease Study 2021. Lancet Public Health 2025 ; 10 : e321-e332.
 - 2) 厚生労働省：“健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法（平成30年12月14日法律第105号）”. 〈https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=80ab6708&dataType=0&pageNo=1〉.（閲覧2025年10月22日）
 - 3) 新潟県：“新潟県循環器病対策推進計画（令和6年3月）”. 〈<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/402958.pdf>〉.（閲覧2025年10月22日）
 - 4) 新潟県脳卒中・心臓病等総合支援センター：“ホームページ”. 〈<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/no-shin/>〉.（閲覧2025年10月22日）